

ANNUAL REPORT 2024

アニュアル・レポート 2024



イメージキャラクター「かわぶる」

国分寺市障害者基幹相談支援センター

令和6年度(2024年度) 事業報告

① 相談支援体制の強化と地域づくりの推進役を担う「主任相談支援専門員」の知見を活かした取組を始めました。

成果 ① 主任相談支援専門員連絡会の開催(毎月)
相談支援事業所連絡会の企画や研修内容等について協議しました。また、相談支援専門員が抱える課題を共有しながら、支援に行き詰っている難しい相談への対応方法等、相談支援専門員へのサポートに取り組んでいます。

② 相談支援従事者研修(初任者研修・現任研修)の実習対応
相談支援専門員の資格取得のための研修実習の場に参加し、サービス等利用計画作成時のポイントや地域の相談支援の現状等について助言を行いました。(令和6年度の対応実績:初任者研修10名、現任研修6名)

③ 基幹相談支援センター主催研修や他機関主催の会議等への参加・協力
相談支援専門員のスキルアップのための研修会や事例勉強会の企画・運営のほか、児童・高齢分野が主催する会議において地域の課題を共有し、連携強化に向けた協議を行いました。

② 新たに計画相談の利用を希望する方を円滑に相談支援事業所へつなぐための取組を始めました。

成果 ① 新規で計画相談の依頼が入り、契約する相談支援事業所が見つからなかった場合に、希望者の情報を集約し、対応可能な相談支援事業所を確認する仕組みをつくりました。

② 相談支援事業所連絡会のメーリングリストを活用し、計画相談希望者のうち97.9%(令和6年2月末時点)が相談支援事業所と契約することができました。

③ 8050世帯やひきこもりの方への相談対応や支援連携の強化を図るため、社会福祉協議会・地域包括支援センター・基幹相談支援センターの三者で意見交換を行いました。

※取組の詳細内容は、4ページの記事(関係機関からのメッセージ)をご覧ください。



高齢分野とのネットワークづくり ～障害・高齢分野との連携～

10月

【ネットワーク研修Ⅱ】
「高齢福祉と障害福祉の
共生型サービスについて」



(報告書)

- 基幹職員の講師派遣(3回)
- ・新任ケアマネ研修
 - ・生活支援隊養成研修(担い手専門研修)
 - ・地域包括支援センター全体会

- 会議等参加(13回)
- ・地域包括支援センター訪問(全6カ所)
 - ・地域ケア会議 権利擁護部会(2回)
 - ・新任ケアマネ研修(2回)
 - ・地域包括支援センター全体会(1回)
 - ・個別支援会議(1回)
 - ・高齢福祉課・包括・市・基幹四者会議(1回)

延べ参加者

548名



支援に携わる人材の育成

【地域の支援者向け】
ネットワーク研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
支援者向け虐待防止研修

- 【相談支援専門員向け】
- ・新任研修(1回)
 - ・ブラッシュアップ研修(3回)
 - ・事例勉強会(2回)
 - ・グループワーク(1回)
 - ・個別コンサルテーション(9回)
1ケースにつき2時間(計18時間)、5事業所が参加



精神保健・医療分野との ネットワークづくり ～精神科病院からの地域移行～

7月

【ネットワーク研修Ⅰ】
「地域移行支援 in 国分寺」
～居住の場で行われている支援について～



(報告書)

- ・養護教諭連絡会での情報提供(1回)
- ・近隣市の精神科病院での地域移行等支援院内研修会(1回)
- ・近隣市の精神科病院との合同事例勉強会(1回)
- ・精神障害に関する普及啓発に向けた講演会の実施(1回)



権利擁護・虐待防止

12月

【支援者向け虐待防止研修】
「強度行動障害の状態にある方への支援」
～支援者としての基本姿勢と支援のポイント～



(報告書)

- ※会場とオンラインのハイブリッド開催とした。オンライン161名、会場47名、計208名が参加し、市内の各法人・事業所の研修として活用が広がってきている。
- ・権利擁護関係機関連絡会(2回)
 - ・権利擁護地域連携ネットワーク会議(1回)



行政との つながり

- ・障害福祉課 **市 - 基幹 定例協議(毎月)**
- ・生活福祉課 **緊急把握**
家族構成等の変化により、緊急度が高まっている世帯を把握し、市と情報を共有する。
- ・高齢福祉課 **緊急入所保護事業**
市内在住の障害者等を介護している同居の家族が、病気等により家庭で介護ができなくなり、事前に他のサービスの利用準備ができていない場合、障害のある方を緊急かつ一時的に施設で保護する。
- ・健康推進課
- ・地域共生推進課
- ・経済課
- ・子ども家庭支援センター
- ・児童発達支援センター
- ・保健所 **重層的支援体制整備事業
支援会議(5回出席)**

計72回



基幹職員の人材育成

- ・研修(39回)
- ・コンサルテーション(1回)
- ・講演会(10回)
- ・説明会(2回)
- ・連絡会(14回)
- ・情報交換会(6回)
- ・講師派遣(6回)

国分寺市障害者地域 自立支援協議会

51回

年間テーマ
「個々の多様なニーズに応えるため、
相談支援体制の充実・強化を図る」

- 【全体会】(3回)
- 【相談支援部会】(3回)
 - ・相談支援事業所連絡会(毎月)
 - ・障害児通所支援事業所連絡会(2回)
- 【就労支援部会】(3回)
 - ・国分寺障害者施設お仕事ネットワーク(12回)
 - ・就労支援事業所連絡会(2回)
- 【精神保健福祉部会】(3回)
 - ・地域移行等支援連絡会(11回)
- 事務局会議(15回)
- ニュースレター発行(年2回)



自立支援協議会ニュースレター
(東京都国分寺市公式ホームページ)

12回



相談支援事業所 連絡会(毎月)

主任相談支援専門員と協働のもと、相談支援専門員同士の意見交換や情報共有、ブラッシュアップ研修や事例検討等を実施し、相談支援専門員のスキルアップと連携の強化を図る。

- ・相談支援事業所訪問(全9カ所)
- ・相談支援従事者初任者研修の対応(12回)
- ・相談支援従事者現任研修の対応(7回)

相談支援事業所連絡会では、社会福祉協議会の事業(自立生活サポートセンター、権利擁護センター、地域福祉コーディネーター等)や報酬改定・支給決定基準、サービス等利用計画の書き方に関する研修等を実施した。

国分寺市の基幹相談支援センターとともに



長畑 達也

国分寺地域包括支援センターもとまち
管理者



基幹相談支援センターの皆様には日頃よりケースを通じた連携などで大変お世話になっております。

この度、基幹相談支援センターからお声掛けをいただき、社会福祉協議会、地域包括支援センターの三者で8050世帯の支援を中心としたさまざまな課題について意見交換することができました。

私自身、長らく市内の包括職員としてさまざまな機関や専門職の方々と連携する機会がありましたが、時間をかけてお互いの「本音」を語り合うような機会はあまり無かったと感じています。お互いに同じ福祉分野の「同志」であっても各々の機関の役割はもとより、背景にある制度や積み上げてきた専門性など多くの「違い」があると感じています。今回のような意見交換や情報共有の機会が継続していくことで、お互いの「違い」や「強み」を定期的に確認し、更なるパートナーシップを深めることができると思います。

基幹相談支援センターの皆様には、自立支援協議会など会議の機会でもお世話になることが多いのですが、事前の丁寧な準備、会議当日の出席者への細やかな声掛けなど大変刺激を受けています。今後とも色々とお世話になることが多いと思いますが、何卒よろしくお願いたします。

木村 祥子

国分寺地域包括支援センターなみき
管理者



基幹相談支援センターの皆様には、日頃より地域包括支援センターの取組にご支援・ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

地域包括支援センターでは、地域で生活するご高齢者の保健・医療・福祉に関するさまざまな困りごとについて、ご本人やご家族、ご近所さん等からの相談を多数お受けしています。その多くは、理由や原因が「ハッキリ」していて、すぐに「スッキリ」解決とはいかず、時間をかけ、寄り添いながら、そして多方面からの支援を要するものです。その方の生きづらさや生活課題に向き合うためには、ひとつでも、そしてひとりでも多くの相談しやすい場所や人を増やし、連携することが大切と日々感じています。

基幹さんのお声掛けから実現した今回の連携会議に参加し、日々の暮らしの中で抱える困りごととは、その方がひとり暮らしであってもご家族と同居されていても、ご本人自身の課題のみならず、ご家族の特性（疾患や関係性等）、住んでいる地域性等が相まって生じるものであることに改めて気づかされました。だからこそ、支援者側には分野を越えた顔の見える関係・連携が重要であり、基幹さんの柔軟性、社協さんの機動力、地域包括の専門性等の協働による支援こそが、課題の早期発見・早期対応につながるのだと思います。

これからも、ともに手を携えていきましょう！

北邑 和弘

社会福祉法人 国分寺市社会福祉協議会
事務局長兼地域福祉課長



この度、基幹相談支援センターからお声がけをいただき、初めて三者による連携会議が実現いたしました。社会福祉協議会からは、地域福祉コーディネーター、自立生活サポートセンター、権利擁護センターの各相談業務を担う担当者も出席させていただきました。

これまで、基幹相談支援センターや各地域包括支援センターとは個別課題や地域課題に対し、その都度連携を図ってきました。一方で、地域生活課題はより一層複雑化・複合化・深刻化しており、「8050世帯」や「ひきこもり」などでは、一つの世帯でさまざまな要素や原因が重なり、一つの支援機関だけでなく、地域の支援機関とのつながりの中で、その課題や問題の解決に取り組むことが必要かつ、重要なことと認識しています。そして、「連携」には、お互いに良好なコミュニケーションを意識すること、お互いの役割を理解し合うこと、そして、お互いを尊重し合うことが必要だと感じています。

今回の三者による連携会議では、それぞれの支援機関の立場から見えている地域や見えてくる地域課題、そして、個別課題に対して各機関の役割や困りごとなどについて、お互いに改めて知り、認識を深める良い機会となりました。今後も三者による連携会議を継続し、より連携を深めることで、お互いの強みを活かし、「地域共生社会」の実現に向けて、共に取り組んでいきたいと思っております。

尾田 史剛

国分寺市障害者基幹相談支援センター
センター長



令和6年4月より、国分寺市障害者基幹相談支援センター長に就任しました。基幹に求められる役割は、さまざまな相談対応から、相談支援専門員の後方支援、分野を超えた支援体制づくりやネットワークの構築など、驚くほど多彩で広い範囲に及びます。そのため、関係機関の役割を知り、課題を共有し、連携していくことは、基幹の役割を果たしていく上で必要不可欠です。

令和4年度より基幹では、高齢者の相談窓口である市内の地域包括支援センターを訪問し、高齢分野と障害分野の課題の共有や連携について話し合う機会を作ってきました。近年は特に、8050世帯における障害かもしれない50代の家族や、長年ひきこもっている障害のある家族への対応に関わる課題が多く、分野を超えた「家族全体（世帯）」への支援が必要な場合が増えていることを実感しています。

そこで、令和6年度は新たに、地域包括支援センター・社会福祉協議会・基幹相談支援センターの三者による連携会議を実施しました。各支援機関の役割や課題の共有はもちろん、お互いの特性や強みを活かした支援や連携のあり方について検討し、市内の相談支援体制の充実・強化につなげていくことを目的としています。スタートしたばかりの取組ですが、継続して協議を重ねることで、関係機関の皆様との連携を強め、誰もが安心して暮らせる共生社会を目指して、尽力してまいります。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

「国分寺市障害者基幹相談支援センター Annual Report (アニュアル・レポート) 2024」

令和7年（2025年）5月16日発行

社会福祉法人 万葉の里 国分寺市障害者基幹相談支援センター

〒185-0002 東京都国分寺市東戸倉2-7-26 KOCO・ジャム

電話：042-320-1300 FAX：042-313-8823 <https://kokubunji-kikan-towaple.com/>

印刷：社会福祉法人 ななえの里
ともしび工房